

平成25年度
ナイトシャトルバス「元気号」運行計画（案）

平成25年9月

白馬村

平成25年度ナイトシャトルバス「元気号」運行計画（案） 目次

I. 白馬村地域公共交通 観光交通システム検討委員会の開催	1
II. 平成25年度ナイトシャトルバス「元気号」運行計画（案）	3
III. 平成25年度ナイトシャトルバス「元気号」運行内容の比較	5
IV. 平成25年度ナイトシャトルバス「元気号」利用促進計画（案）	6
V. ナイトシャトルバス「元気号」運行収支	7

I. 白馬村地域公共交通 観光交通システム検討委員会の開催

1. 設置目的

白馬村地域公共交通会議において協議する事項のうち、運行計画に関する調査検討を行う。

2. 掌握事項

白馬村が実施する住民輸送サービス等の運行計画策定について検討し、その結果を白馬村地域公共交通会議に報告する。

3. 委員構成 (18名以内)

白馬村地域公共交通観光交通システム検討委員会名簿 (平成25年4月1日現在)

◎委員長 ○副委員長

選出区分	所属・職名	氏名
住民代表	白馬村地域公共交通会議 委員 (一般公募)	速水 政文
住民代表	白馬村地域公共交通会議 委員 (一般公募)	渡邊 宏
事業者	アルピコ交通株式会社 白馬営業所長	勝野 英樹
事業者	有限会社白馬交通 代表取締役社長	遠藤 清
観光団体	一般社団法人白馬村観光局 観光局長	篠崎 孔一
観光団体	一般社団法人白馬村観光局 インバウンド専門委員長	○柴田 謙二
観光団体	白馬ツーリズム 代表	塩島 眞一
行政機関	白馬村役場 観光課長	◎篠崎 孔一

4. 会議の開催

(1) 第1回白馬村地域公共交通 観光交通システム検討委員会

日時 平成25年5月14日(火) 午後1時30分から午後3時00分まで

場所 白馬村役場 庁議室

出席者 9名 (検討委員: 6名、事務局2名、白馬村地域公共交通会議事務局1名)

内容 ・2012-13 ナイトシャトルバス「元気号」の運行実績について
 ・2013-14 ナイトシャトルバス「元気号」の運行について

会議報告

①委員長及び副委員長の選任

委員長に篠崎孔一委員を、副委員長に柴田謙二委員をそれぞれ互選した。

②2012-13 ナイトシャトルバス「元気号」の運行実績について

運行内容及び実績を白馬村が説明した。

③2013-14 ナイトシャトルバス「元気号」の運行について

委員による意見交換会を実施した。

意見

②2012-13 ナイトシャトルバス「元気号」の運行実績について

- ・出発地である和田野エリアで満車となり、乗り残してしまうケースが44日間もあった

③2013-14 ナイトシャトルバス「元気号」の運行について

- ・2013-14 シーズンは、円安傾向が進んでいること、原発事故に対する心配は薄れていることから、外国人観光客は大幅に増加すると予想する
- ・ルートや停留所の配置を再考し、乗り残しを解消する
- ・運賃の値上げを検討する

決定事項

③2013-14 ナイトシャトルバス「元気号」の運行について

- ・運賃を300円に値上げする
- ・運行系統はブルーラインとグリーンラインの2系統とし、休止していたレッドラインを廃止する
- ・これまでの運行実績をみながら、実績を反映したルートや停留所の配置とする
- ・あわせて、運行台数を増加することで乗り残しを解消する
- ・運行期間は、2012-13 シーズンと同様に、クリスマス頃から翌2月末日までとする

(2) 第2回白馬村地域公共交通 観光交通システム検討委員会

日 時 平成25年9月18日(火) 午後3時00分から午後4時30分まで

場 所 白馬村役場 庁議室

出席者 9名(検討委員:6名、事務局2名)

内 容 ・2013-14 ナイトシャトルバス「元気号」の運行について

会議報告

①2013-14 ナイトシャトルバス「元気号」の運行について

運行計画(案)を白馬村が説明した。

意見

①2013-14 ナイトシャトルバス「元気号」の運行について

- ・停留所のうち、ピラ白馬は咲花ゲレンゲ入口に名称変更した方がよい
- ・ラインの名称について、ブルーライン(内回り)とグリーンライン(外回り)という表記であるが、外国人観光客の利用を考えると、色による表記が望ましい(ブルーライン、レッドライン、グリーンライン)
- ・回数券購入乗車方式を廃止するとの案であるが、これまでの実績から判断した方がよい
- ・車両装飾について、夜間に運行することを考えると、蛍光剤を利用したマグネットシートを採用した方がよい

決定事項

①2013-14 ナイトシャトルバス「元気号」の運行について

- ・運行期間は70日間とする
- ・停留所は、名称変更が3箇所、廃止が2箇所、休止が1箇所、追加が2箇所とする
- ・運行ラインは3ラインとし、名称はブルーライン、レッドライン、グリーンラインとする
- ・利用料は300円とし、回数券購入乗車方式については、購入実績があまりないことと、サービス面への影響もないことから廃止とする
- ・車両装飾については、安全性への影響を確認したうえで、予算を勘案しながら検討する

II. 平成 25 年度ナイトシャトルバス「元気号」運行計画（案）

1. 運行目的

項目	運行計画の策定方針
(1) 運行目的	居住エリア又は宿泊エリアと飲食店及び商業施設を結ぶシャトルバス運行事業を実施することで、住民及び観光客の消費行動の促進を図り、もって村内商業地域の活性化に寄与することを目的とする。なお、運行計画の策定にあたっては、指摘事項を改善するとともに効率性を重視しながら、利用者の快適性と利便性の向上を図ることとする。

2. 運行方法

項目	運行計画の策定方針
(1) 事業主体	白馬村
(2) 運行主体	一般乗合旅客自動車運送事業者（10月下旬に業者を決定する予定）
(3) 運行方法	宿泊エリアと一般商店、飲食店、公共施設及び駅等を結ぶ定時定路線型のバスを運行する。

3. サービスレベル

項目	運行計画の策定方針
(1) 利用対象者	住民及び観光客を対象とする。
(2) 運行ルート ※資料集 P. 2, 4, 6	<p>■ブルーライン（主な経由地） 和田野（始点）～八方ゴンドラ～八方インフォメーションセンター（八方バスターミナル）～瑞穂交差点～エコーランド入口～マックパブリック白馬店～JR 白馬駅～八方インフォメーションセンター（八方バスターミナル）～八方ゴンドラ～和田野（終点）</p> <p>■レッドライン（主な経由地） 和田野（始点）～八方ゴンドラ～八方インフォメーションセンター（八方バスターミナル）～JR 白馬駅～マックパブリック白馬店～エコーランド入口～瑞穂交差点～八方インフォメーションセンター（八方バスターミナル）～八方ゴンドラ～和田野（終点）</p> <p>■グリーンライン（主な経由地） 和田野（始点）～八方ゴンドラ～八方インフォメーションセンター（八方バスターミナル）～瑞穂交差点～エコーランド入口～JR 神城駅～エスカプラザ～飯森ゲレンデ下～十郎の湯～エコーランド入口～瑞穂交差点～八方インフォメーションセンター（八方バスターミナル）～八方ゴンドラ～和田野（終点）</p>
(3) 運行期間	平成 25 年 12 月 21 日（土）～平成 26 年 2 月 28 日（金）の毎日、70 日間
(4) 運行便数	ブルーライン：4 便、レッドライン：4 便、グリーンライン：3 便
(5) 運行時間 ※資料集 P. 3, 5, 7	17:00～22:06

(6)利用方法	現金による支払で乗車する方法
---------	----------------

4. 運賃の設定

項目	運行計画の策定方針
(1)運賃	300円(大人・小児一律1回)、未就学児童(6歳未満)無料

5. 車両・設備

項目	運行計画の策定方針
(1)車両数	常備車両：3台、予備車両：1台
(2)車両の仕様	小型のバス(中型自動車マイクロバス)
(3)車両の装飾 ※資料集P.8	マグネットシート：大2枚、小2枚 電光板：2台(枚)

Ⅲ. 平成 25 年度ナイトシャトルバス「元氣号」運行内容の比較

項目	2012-13 (平成 24 年度)	2013-14 (平成 25 年度)	変更点
運行期間	H24.12.22-H25.2.28 (69 日間)	H25.12.21-H26.2.28 (70 日間)	増加 (1 日)
停留所	和田野ビラ白馬外 25 停留所	和田野ビラ白馬外 24 停留所	①瑞穂交差点からロツク瑞穂へ名称変更 ②白馬中学校前 (きぎよう屋) をきぎよう屋へ名称変更 ③ビラ白馬を咲花ガレッジ入口へ名称変更 ④白馬屋とみそら野ローターを廃止し、ローター入口を追加 ⑤ガレッジを休止 ⑥路線追加に伴い、飯森ガレッジ下を追加
運行時間	ブルライン 17:40-22:09 4 便	ブルライン 17:25-22:00 4 便	・停留所にHワウト線を追加し、上記①、②、③、④、⑤を変更
運行便数	レツドライン 休止	レツドライン 17:30-22:05 4 便	・新規系統 ・停留所はブルラインと同様
	ガリブライン 17:50-22:46 3 便	ガリブライン 17:00-22:06 3 便	・神城山麓線を追加し、十郎の湯～JR 白馬駅～八方インフォメーションセンター間の路線を休止 ・停留所欄の①、③、④、⑤、⑥を変更
利用料	200 円 (大人・小児一律 1 回) 未就学児童 (6 歳未満) 無料	300 円 (大人・小児一律 1 回) 未就学児童 (6 歳未満) 無料	値上げ (100 円)
回数券	1,000 円 (6 枚綴り)	—	設定しない
利用方法	現金乗車方法及び回数券購入乗車方法の併用	現金乗車方法	回数券購入乗車方法を廃止
車両装飾	マガネット: 大 2 枚、小 2 枚 電光板: 2 台 (枚)	マガネット: 大 2 枚、小 2 枚 電光板: 2 台 (枚)	変更なし
その他	・チラシ及び停留所看板に村内カクシ会社の社名及び電話番号を表記 ・スポットカー広告枠の設定	・チラシ及び停留所看板への村内カクシ会社の社名及び電話番号を表記 ・スポットカー広告枠の設定	変更なし

IV. 平成 25 年度ナイトシャトルバス「元気号」利用促進計画（案）

1. 村内での情報発信

(1) フラジによる周知（白馬村、白馬村観光局、常設観光協会、索道事業者、JR 白馬駅、白馬商工会、
宿泊施設、飲食店、商業施設、観光関連事業者への配布）

(2) ホームページにおける周知（白馬村、白馬村観光局）

(3) 旅行会社への情報発信

(4) 新聞折り込みによる周知

(5) ユーテレ白馬（ケーブルテレビ）による周知

2. 村外への情報発信

(1) 白馬村観光局による県内メディアへのプレスリリース

(2) 東名阪長野県観光情報センターにおける定例記者会見及びメディアへのプレスリリース

3. その他

(1) ウィンターシーズンイベントにおける周知

(2) 白馬村観光局公式ガイドブックへの掲載

V. ナイトシャトルバス「元気号」運行収支

(支出)

← 実績 ———— 計画 ———→

(単位：円)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考
1. バス運行経費	8,328,180	8,328,180	4,636,800	7,717,500	
日数	79	79	69	70	H25.12.21-H26.2.28
単価					
レフトライン	35,490	35,490	—	36,750	
ブルーライン	35,490	35,490	33,600	36,750	
グリーンライン	34,440	34,440	33,600	36,750	
費用					
レフトライン	2,803,710	2,803,710	—	2,572,500	
ブルーライン	2,803,710	2,803,710	2,318,400	2,572,500	
グリーンライン	2,720,760	2,720,760	2,318,400	2,572,500	
2. 時刻表作り作成費	220,500	220,500	194,250	194,250	
3. バスチケット作成費	148,050	148,050	147,000	0	
4. バス停看板作成費	0	0	389,550	100,000	
5. バスマグネットシール作成費	88,200	126,000	0	84,000	
6. バス停時刻表変更	409,500	519,225	0	100,000	
7. バスチケット販売所表示シール作成費	105,000	89,250	0	0	
8. 諸経費	18,070	0	16,614	0	
計	9,317,500	9,431,205	5,384,214	8,195,750	

(収入)

(単位：円)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考
(利用者数)	12,548	10,265	10,156	12,000	
1. 運賃収入	2,509,600	2,053,000	1,678,000	3,600,000	運賃単価：300円
レフトライン	715,400	699,600	—		
ブルーライン	1,059,000	786,400	1,096,400		
グリーンライン	735,200	567,000	581,600		
2. チケット販売収入	126,000	77,000	606,000	0	
3. 広告収入	0	0	150,000	150,000	時刻表作り 1社
計	2,635,600	2,130,000	2,434,000	3,750,000	

(委託料)

(単位：円)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	備考
1. 支出			5,384,214	8,195,750	
2. 収入			2,434,000	3,750,000	
差引(委託料)			2,950,214	4,445,750	

